

I. 開拓記念の碑

1. 前田正名胸像



前田正名は明治39年(1906)約五千畝の山林の払い下げを受け、阿寒湖畔の開拓を始めた。自然を護りながら阿寒を観光開発したその功績を讃え、昭和36年(1961)観光案内所前の公園に建立された。

碑には前田正名が詠める「後の世の春を頼みて植えおきし 人のこころのさくらをぞ見る」と刻まれている。

2. 高松豹一君記念碑



高松豹一は碑文によると、青森県中津軽郡清水村に生まれ、大正3年(1914)北海道巡査として当時の阿寒村に駐在している。そして後の大正9年に、この地において39歳の若さで病没している。この碑は何らかの功績を讃え大正9年に建立されたものだが、その理由は碑に刻まれていない。旭町の西来寺境内に建てられ、65名が発企者として刻まれている。

3. 殉公碑



阿寒町が町制施行と開基70年を記念して昭和32年(1957)北町の鶴見が丘公園に建てられた。戦没者、殉職者、功労者の霊が祀られている。昭和61年(1986)に開基百年事業の一環で改築された。

4. 青年の像



阿寒の若い青年たちが情熱をもって新しいまちづくりに取り組んでいる姿を碑に象徴しようと昭和48年(1973)、新築の役場庁舎前広場に建立された。青年の像建立委員会(松橋主幸委員長)には町内の青年6団体が結集した。

5. 忠魂碑



戦没者の霊を祀るため、遺族会が昭和 52 年（1977）神社境内に建立した。後の平成 6 年（1994）に改築されている。碑には 87 名の戦没者の氏名などが刻まれ、遺族会は毎年 8 月に戦没者慰霊祭を執行している。

6. 雄別鉄道記念碑



雄別鉄道は大正 12 年（1923）、釧路と雄別炭山を結んで開業したが、炭鉱閉山に伴い昭和 45 年に廃止された。記念碑は 10 年後の昭和 55 年（1980）に阿寒駅のあった場所に建立された。碑の正面に機関車の車輪が刻まれている。

7. 阿寒町開基の碑



開拓者の偉業を讃え、その苦闘の歴史を後世に伝えようと、開基百年を記念して昭和 61 年、最初に開拓の鍬が下ろされた富士見町の公園に建立された。碑の形は四世代にわたって築いてきた町の姿と大地に刻み込まれた開拓の鍬を表している。

8. 未来の塔



郷土の未来を担う子供たちの健全な成長を願って、昭和 61 年（1986）開基百年事業の一環で建立された。場所は同事業を記念して造成された鶴見ヶ丘公園の「子供の森」に建てられ、台盤には黒みかげ石に刻まれた各学校の校歌版を、それぞれの学校の方位に取り付けられている。

塔の真下にはタイムカプセル室が設けられ、各学校の子供たちの作品などが収納されている。

9. タンチョウ愛護発祥の碑



昭和 25 年の冬からタンチョウに餌を与え続け、今日の一大楽園を築かれた農家の人々を讃え、後世にその業績を永く伝えるために平成 8 年（1996）、阿寒国際ツルセンターの落成を記念して建立された。

碑の背後には、山崎定次郎が餌づけに成功した給餌畑が広がり、側には同時に建てられた犬養孝万葉歌碑がある。

10. 紀之丘開基 50 周年記念碑



紀ノ丘地区に開拓者が入植してから 50 年
が経ったことを記念して、昭和 48 年 (1973)
紀ノ丘神社の鳥居横に建立された。

碑の正面には建立者として、1 団体 12 個
人の名が刻まれている。

11. 開拓者 青木光治翁碑



青木光治は大正 6 年 (1917) に岐阜県文殊
村から入植したが、部落の有志一同は仁々
志別開拓の先駆者としての苦闘の歩みを讃
えて昭和 14 年に建立した。碑は最初 26 線
の神社前に建てられたが、昭和 50 年に仁々
志別小中学校の校庭へ移設された。

12. 開拓者 加地良次の碑



加地良次は昭和 3 年 (1928)、愛媛県中曾
根村から下仁々志別に入植した。碑は昭和
50 年 (1975) 学校校庭に 88 歳の米寿を記念
して本人が建立した。碑の正面には「天壤
無窮」と刻まれている。

13. 開拓記念碑



青木光治は大正 7 年 (1918) 岐阜県本巢
村から、有志 7 戸をまとめて仁々志別に団
体移住し開拓に従事した。碑は二代目の青
木敏が、開拓 75 周年を記念して平成 3 年
(1991)、中仁々志別の自宅前に建立した。
碑の正面には青木団体長をはじめ七名の入
植者が刻まれている。

14. 開拓労苦の碑



安池乙次郎は明治 39 年 (1906)、静岡県
南藁科村から 47 歳のとき知茶布に入植し
開拓に従事した。碑は開拓の労苦を偲び、
一族を代表して安池順一が昭和 63 年
(1988) 入植の地に建立した。

15. 雄別炭砒記念碑



雄別炭砒は大正九年（1920）に創業し、一時は年間 60 万トンの生産量を誇ったが、エネルギー革命により昭和 45 年（1970）企業ぐるみ閉山した。碑は 50 年の歴史を後世に伝えるとともに殉職者の冥福を祈るため、昭和 55 年（1980）有志が期成会をつくり炭砒跡地に建立した。雄別出身者が当時を偲び、同地を度々訪れている。

16. 知茶布隧道跡の碑



知茶布地区は明治 30 年頃（1897）から 33 戸が入植し開拓が進められた。知茶布隧道は決起した入植青年 14 名が掘削に参加し、昭和 25 年（1950）8 5m の隧道を完成させた。

記念碑は青年たちの偉業を後世に伝えるため、老朽化した隧道が撤去されたのを機に平成 10 年（1998）阿寒町が建立した。碑は隧道跡地の知茶布側に建てられている。

17. 阿寒湖の碑



碑は昭和 63 年（1988）、阿寒湖青宝会が設立 20 周年を記念して建立した。正面には、円形の白みかげ石に阿寒湖周辺の方位と案内図が刻まれている。

18. 雄別中学生阿寒湖遭難慰霊碑



雄別中学校の修学旅行生 31 名を乗せた雄別炭砒所有の小型モーターボートが昭和 22 年 10 月 11 日阿寒湖ポケ付近で沈没し、14 名が犠牲になった。

33 回忌を迎えた昭和 54 年、同窓生（稲沢石雄代表）が建立期成会を組織し、冥福を祈って正徳寺境内に建立した。

Ⅱ. 信仰の碑

19. 包丁塚 魚鳥供養の碑



阿寒湖温泉の調理師の人たちが、郷土料理の食材となってくれた魚鳥の霊を供養するため、昭和54年(1979)観光案内所前広場に建てた包丁塚である。碑文は前田光子前田一步園主が書き、北海道日本料理研究会阿寒湖支部の塚和会が建立した。

20. 獣魂碑



開拓の礎となった牛馬の霊を祀るため、昭和61年(1986)中央町の家畜共進会場内に建立された。碑は阿寒町開基百年を記念して、獣魂碑建設委員会が建てた。裏面には建立に協賛した法人4団体、個人186名の名前が刻まれている。

21. 馬頭観世音碑



仁々志別原野は大正7年(1918)からの入植者の人たちによって開拓された。その開拓に最も活躍した馬に感謝し、その霊を祀るために建立された。碑は昭和13年当時の下仁々志別小中学校前庭(現在は集会所)に、長谷川弘、漆原カナが建てた。

22. 馬頭観世音碑



碑は昭和5年(1930)入植当時の中心地であった中仁々志別に建立された。その後、碑の位置は道路改良事業のため、管野一郎宅の道路向かいから約100m東側の私道沿いに移設された。

23. 馬頭観世音碑



紀ノ丘地区は明治38年(1905)福島県などからの入植者によって開拓された。碑は昭和9年(1934)、紀ノ丘神楽が奉納されている神社の側に建てられた。

24. 馬頭観世音碑



この碑を建立した青田鐵治は、明治 34 年（1901）福島県日之木村から上阿寒の地に入植している。碑は昭和 6 年（1931）自宅裏に建てた。後に移設され台座に上げられた。現在は三代目の武雄が管理している。

25. 馬頭観世音碑



この碑は昭和 6 年（1931）馬主一同によって建てられ、昭和 40 年頃に雄別横山にあった雄晶寺境内から現在地である布伏内の道道沿い（五十嵐昇所有地）に移設されている。当時は五十嵐木材が管理していたが、移設後は隣家の工藤一郎が管理している。

26. 馬頭観世音碑



この碑は大正 11 年（1922）北海炭鉱内・横澤田乙次郎が建立している。北海炭鉱は雄別炭鉱の前身で大正 8 年に設立されている。この碑はNo.25 の碑の側に置かれているが、平成 7 年頃に移動したものらしい。

27. 馬頭観世音碑



碑は昭和 3 年（1928）布伏内の旧雄鉄線沿いに建立された。当初は旧雄別鉄道と大正林道の交点近くに設置されたが、木彫工場が建てられた際に、東の山林側に移設されている。碑は、そのとき出土した自然石に上げられた。

28. 牛馬頭観世音碑



碑は大正 14 年（1925）、西徹別集会所（旧西徹別小学校）の北側に建立された。

建立者は「徹別一同」と刻まれている。

29. 馬頭観世音碑



碑は昭和 13 年（1938）、当時、上仁々志別の光明寺境内に建立された。

仁々志別地区は大正 7 年（1918）の入植者たちによって開拓が始まっている。この碑は下仁々志別に建てられた碑と同時期に建てられたもので、碑には馬の像が刻まれている。

30. 馬頭観世音碑



碑は昭和 21 年（1946）徹別中央の徹別種付所（当時・現在の中徹別小学校の北側）に建立された。昭和 27 年に中徹別小学校が移設新築されたことにより、学校跡地（現在の徹別多目的センターの裏地）に移設されている。

碑の台座は旧小学校の奉安殿の基礎部分がそのまま使用された。発起者として、徹別種付所世話人、徹別各部落会、徹別聯合青年団の 3 団体が刻まれている。

31. 馬の労苦に感謝の碑



碑は知茶布の開拓者である安池乙次郎開拓労苦の碑の隣に建てられている。明治 39 年入植してから開拓の労苦を共にした馬に感謝し霊を供養するために、一族の安池順一が開拓労苦の碑と同時期の昭和 63 年（1988）に建立した。

32. 慰霊碑



碑は平成 5 年（1993）上舌辛の阿寒霊園内に、まちづくりに功労のあった住民の霊を供養するため阿寒町が建立した。

33. 地蔵尊



碑は昭和 14 年（1939）中仁々志別の管野一郎宅前に建てられた。この場所は開拓時代の中心地であった。当時、入植した人々は何も楽しみがないことから、部落民が集い弘法大師の碑を祀り、部落 12 戸の団らん場としていたという。現在は管野一郎が管理している。

34. 地蔵尊



碑は昭和 13 年（1938）上徹別の国道沿いに建立された。碑の右側 4 体は大師講、左側 1 体は正覚善童子である。

35. 富士之築山記念碑



安藤利右工門は阿寒の最初の入植者で、明治 30 年（1897）のことであった。碑は昭和 6 年（1931）富士見の入植地に建立した。

碑の隣には出身の愛知県から伝承した丸山教を祀った築山がある。裏面に舌辛宣教所長権少教正 安藤利右工門建立と刻まれている。

36. 地蔵尊



碑は上仁々志別の元光明寺跡地にあり、建立時期や建立者は不明である。裏面には、清涼童子、光山空芸禅女、信一禅童子、貞光禅童子と刻まれている。

37. 獣魂碑



碑は昭和 50 年（1975）下仁々志別の大栄畜産(株)敷地内に建立された。昭和 48 年創業の同会社が生産している豚の霊を供養するため建てた。

38. 慰霊碑



曹洞宗西来寺は大正 8 年（1919）石川県人広瀬嶺童によって旭町に開基された。碑は昭和 10 年、西来寺境内に建立された。前面に「慈悲」と刻まれている。発願者は武隈豊次郎ほか 7 名である。

39 慰霊碑



碑は昭和 16 年（1931）、上仁々志別の寺院跡に建立されている。

寺院は光明寺といい、曹洞宗定光寺ニニシベツ布教所として、昭和 6 年（1931）に設立された。住職は伊藤俊光、代理は佐藤安左工門、総代は伊藤清巳であった。

40. 慰霊碑



碑は昭和 58 年（1983）阿寒湖温泉・正徳寺境内に建立されている。昭和 53 年 1 月、本間家の親子孫が焼死した 5 名を慰霊する地藏尊である。本間健司が建てた。

41. 慰霊碑



碑は昭和 49 年（1974）下徹別の国道沿いに建立された交通安全地藏尊である。鎌田雪子が建てた。

阿寒新四国八十八か所霊場

弘法大師（空海）の旧跡とされている八十八か所の霊場は、四国4県にまたがって存在している。これを模してつくられた八十八か所霊場は、釧路市と弟子屈町および標茶町にまたがり、そのうち阿寒には阿寒湖温泉を中心として9か所に17霊場（一覧は別表）が設置されている。

第一番は西端寺境内（釧路市米町）に、第八十八番は松光寺境内（中島町）に置かれている。石仏は福井県で制作され昭和3年（1928）に開眼式が行われたとされ、88体に大師像を1体をそれぞれに添えて176体とし、さらに不動明王3体、普賢菩薩2体、勢至菩薩1体、馬頭観音1体を加えた183体からなっている。

霊場巡拝は年に一度定期的に行われているようだが、信者だけではなく地域の人々の信仰の対象とされ、供物や花があげられるなど、近くの人によって管理されている霊場もある。

42. 新四国八十八か所霊場 第六番



碑は、西阿寒・鶴見が丘公園入口に建っている。

43. 新四国八十八か所霊場 第七番



碑は、飽別・飽別発電所入口で国道沿いに建っている。

44. 新四国八十八か所霊場 第九番



碑は、阿寒湖温泉1丁目の町道沿いに建っている。写真右から2、3体目が九番、左から3、4体目が十三番、左から1、2体目が十四番の霊場である。

第九番の2体



45. 新四国八十八か所霊場 第十番



碑は阿寒湖温泉3丁目、正徳寺境内に建てられている。

第十番は左から1体目と6体目で、離れて置かれている。

46. 新四国八十八か所霊場 第十一番



碑は阿寒湖温泉、雄阿寒ホテル跡地の小高い山の中腹に建っている。

47. 新四国八十八か所霊場 第十二番



碑は阿寒湖温泉、滝口水門付近に大木を背に、阿寒湖の湖岸に建っている。

48. 新四国八十八か所霊場 第十三番



碑は第九番および十四番と同じ場所に置かれ、阿寒湖温泉1丁目の町道沿いに建っている。

49. 新四国八十八か所霊場 第十四番



碑は第九番および十三番と同じ場所に置かれ、阿寒湖温泉1丁目の町道沿いに建っている。

50. 新四国八十八か所霊場 第十五番

51. 新四国八十八か所霊場 第十六番

52. 新四国八十八か所霊場 第十七番



No.50～52の碑は第十番と同じく、阿寒湖温泉3丁目、正徳寺境内に建てられている。

第十五番は左から1と4体目に、第十六番は左から3体目と右から2体目に、第十七番は右から1体目と4体目に置かれている。

53. 新四国八十八か所霊場 第十八番



碑の位置は、阿寒湖温泉で湖畔市街地から約500m 釧路寄りに置かれている。

設置当初はマリモ国道の交点から南へ約1kmの雄観林道（旧国道）沿いに置かれていたが、国道改良後（1993年以降と思われる。）にマリモ国道近くの雄観林道沿いに移設されている。

54. 新四国八十八か所霊場 第十九番



碑はNo.53の第十八番と同住所で、第十八番から約10m 東の方向で、マリモ国道近くの雄観林道（旧国道）沿いに置かれている。

55. 新四国八十八か所霊場 第二十番



碑の第二十番から二十三番までの計8体は、阿寒湖温泉の雄阿寒岳登山口（マリモ国道沿い）に置かれている。

第二十番は左から1, 2体目、第二十一番は左から3, 4体目、第二十二番は右から1, 2体目、第二十三番は右から3, 4体目に位置している。

第二十番の2体



56. 新四国八十八か所霊場 第二十一番



57. 新四国八十八か所霊場 第二十二番



58. 新四国八十八か所霊場 第二十三番



なお、第八番については当初ピリカネツプ付近に置かれていたとされているが、巡拝に不便であるとの理由で、現在の山花神社横に移設されたとのことである。

また、第十五番、第十六番、第十七番の三霊場は当初、釧北峠に置かれたが、その後の国道改良工事(時期は不詳)に伴い、阿寒湖温泉の正徳寺境内に移設されたものと言われている。

Ⅲ. 学校の碑

59. 二宮金次郎像



像は昭和14年(1939)阿寒小学校校庭の国道沿いに建立された。中村薫之助が渡道20年を記念して寄贈したものである。後の平成12年(2000)、富士見1丁目に校舎移転新築・開校百周年を機に、新校舎東側に移転している。台座は新設された

60. 下徹別小開校50周年記念碑



下徹別小学校(大正14年(1925)創立)の開校五十周年を記念して、昭和50年(1975)同校敷地内に実行委員会が建立した。

61. 学舎の碑



下徹別小学校は平成5年（1993）阿寒小学校に統合した。碑は閉校を記念して建立された。前面の碑文には「丹頂とともに六十七年」と刻まれている。

62. 上徹別小学校記念碑



上徹別小学校は明治41年（1908）に創立し、昭和53年（1978）に閉校した。碑は開校70周年と閉校を記念して、閉校記念協賛会によって建立された。碑の基礎部分にはタイムカプセルが埋められ、正面のプレートには「同窓の絆」1998年再開、2010年続再開と刻まれている。

63. 布伏内小学校記念碑



碑は昭和61年（1986）阿寒町開基百年を記念して、布伏内小学校校庭に建立された。同校のシンボルである樹齢およそ百年のハルニレの木の側に建てられ、教諭であった須藤歳雄が寄贈した。前面に「にれの木は

心のかげはし みんなの大樹」と刻まれている。

64. 阿寒小学校記念碑



平成13年（2001）新校舎落成と開校百周年を記念して、校庭に協賛会が建立した。前面に校歌が刻まれている。

65. 西徹別小学舎の碑



昭和52年（1977）に閉校した西徹別小学校（大正10年創立）の同窓生が実行委員会を組織して建立した。碑は閉校から26年後の平成15年（2003）に同校跡地に建てられた。本の形をした白みかげ石には55年の足跡が刻まれている。

IV. 文学の碑

66. 松浦武四郎詩碑



松浦武四郎は江戸時代末期の探検家で、安政5年(1858)3月に阿寒湖畔を訪れ、著書「久摺日誌」の中で、阿寒地方の自然について記している。この詩碑は昭和16年(1941)阿寒湖温泉1丁目ボッケ入り口に建立されている。紀元二千六百一年を記念して、釧勝北三国有志代表の佐々木米太郎が建てた。

67. 石川啄木詩碑



石川啄木は明治41年(1908)に来釧し76日間滞在、旧釧路新聞社の記者として活躍するかたわら、釧路を詠んだ多くの詩を残した。

碑は昭和26年(1951)阿寒湖温泉1丁目ボッケ近くの湖岸に建立された。阿寒湖畔部落民一同が建てた。碑には「神のごと遠くすがたをあらはせる 阿寒のやまの雪のあけぼの」と刻まれている。

68. マリモの唄歌碑



碑は平成5年(1993)、阿寒湖温泉1丁目の湖岸に特別天然記念物「阿寒湖のマリモ」保護会が建立した。前面にはマリモの唄の歌詞「水面をわたる風さみし 阿寒の山の湖に 浮かぶマリモよ何おもう マリモよマリモ緑のマリモ」と刻まれている。

揮毫は作詞者の岩瀬ひろしである。石川啄木の碑が約20m 雄阿寒岳寄りに建つ

69. 松浦武四郎歌碑



昭和16年(1941)、阿寒湖温泉・滝見橋付近(雄阿寒岳登山口)国道沿いに建てられている。建立者はNo.66の歌碑と同様に佐々木米太郎で建立時期も同じである。

碑には武四郎が同地を訪れた際に詠んだ歌「いつまでもながめしは盡し阿かぬ山 妹背の中に落る瀧津瀬」と刻まれている。

70. 犬養孝万葉の碑



この碑は今日の阿寒タンチョウの里の自然景観が、古代の人々が鶴（たづ）を万葉のうたに詠んだ当時の原風景として残されているという、万葉研究者で文化功労者の犬養孝の推薦によって建立された。碑は平成8年（1996）阿寒国際ツルセンターの落成を記念してタンチョウ鶴愛護会が建てた。

碑の前面に「旅人の 宿りせむ野に 霜降らば 吾が子羽含め 天の鶴群」の原歌が、犬養孝揮毫で刻まれている

71. 皇太子殿下御歌碑



碑は平成8年（1996）、阿寒国際ツルセンターの落成を記念して、阿寒町が前庭に建立した。碑の前面には皇太子殿下御歌「大空に 舞い立つ鶴の 群眺む 幼な日より わが夢かなふ」と刻まれている。

この歌は、平成3年3月阿寒タンチョウの里をご訪問された皇太子殿下が、雪原に舞う優雅な鶴の群れを観察された深い印象

を御歌にされ、平成5年歌会始の儀において朗詠されたものである。

書家の加藤秋霜が揮毫した。

72. 猪狩満直の碑



詩人・猪狩満直は明治31年（1898）福島県好間村川中子に生まれ、27歳の大正14年（1930）4月、阿寒村舌辛原野25線（現・紀ノ丘）に入植し、昭和5年（1930）12月までの5年9カ月開墾に従事した。その間、昭和4年に詩集「移住民」を発売。この詩は、日本で最も早く農民のこぼ、生活のこぼで詩を書き、農民詩の先駆をなした特異な詩人として注目された。

以後、「銅鑼」「至上律」「北緯五十度」に詩を発表し、「農勢調査」「秋の通信」などの詩集を残して昭和13年（1938）4月、多難な40年の生涯を閉じた。



碑は平成10年（1998）10月に生誕百年を記念して、生誕の地・福島県いわき市に組織された詩碑建立会が、上阿寒23線、